

(ちば経済トレンド9月号)

千葉県内上場企業の13年度の業績予想は、円高修正や株高等を背景に増収増益見通し

千葉県内の上場企業(13年7月30日公表時点。対象企業数33社、製造業15社、非製造業18社。金融を除く)の13年度(14年3月期)決算予想を当社で集計した結果、売上高は12年度(13年3月期)実績比6.6%増、経常利益も同10.7%増となった(下図参照)。製造業・非製造業別にみると、製造業は売上高が同8.8%増、経常利益が同16.4%増、非製造業も売上高が同5.9%増、経常利益が同9.1%増と、ともに増収増益見通しとなった。

上場先別には、東証1部上場先では11社中10社、東証2部上場先では6社中6社、ジャスダック上場先では15社中11社で増収増益予想、マザーズ上場先の1社では増収減益予想と、全33社中27社が増収増益を予想している。増収増益要因としては、①アベノミクスによる大胆な金融緩和策を背景とした円高修正で、輸出環境が好転したこと(輸出採算の改善、輸出数量の増加)、②株高による資産効果を背景に、個人のマインドが改善し消費が拡大したこと、などを挙げる先が多い。対象企業を輸出型・内需型に分けると、輸出型(海外生産拠点のある製造業や、海外案件を受注している一部の非製造業も含む)では10社中9社、内需型では23社中18社が増収増益を予想している。特に、円高修正効果が大きいとみられる輸出型で業績が好転した企業の割合が高くなっている。なお、2月決算の上場企業(対象企業数7社、うち小売業5社)でも、13年度の売上高が前年度比5.8%増、経常利益が同2.2%増と増収増益見通しとなっている。

一方、減益となった企業は33社中6社と少ないが、要因として、「輸入商材(革やゴムなど)の価格上昇」(靴製造業)、「電気料金・軽油価格の上昇に伴う輸送コスト増」(運輸業)といったアベノミクスの副作用的な理由のほか、「主力取引先である電力会社の設備投資削減による売上減少」(金属製品製造業)、「カーユーザーの節約志向や若者のクルマ離れによる市場縮小」(自動車用品小売業)など、固有の事情によるものが目につく。

今後は、消費税引上げを巡る動きや海外経済の動向など不透明な部分もあるが、12年度補正予算や13年度予算の本格執行による公共工事の顕在化、成長戦略の具体策の実行のほか、業績が改善している企業部門から家計部門への波及により、雇用の拡大や賃上げ等による個人の年収増とか企業の設備投資にどう結びついていくかが、景気動向や企業業績をみるうえでのポイントになろう。(高城)

県内上場企業の13年3月期実績及び14年3月期予想

(単位:億円、%)

	13年3月期(実績)		14年3月期(予想)			
	売上高	経常利益	売上高	前年度比	経常利益	前年度比
上場企業(33社)	27,379	1,745	29,196	6.6	1,932	10.7
製造業(15社)	6,872	386	7,473	8.8	449	16.4
非製造業(18社)	20,507	1,359	21,723	5.9	1,483	9.1
増収(増益)企業数	21社	15社	30社	-	27社	-
減収(減益)企業数	12社	18社	3社	-	6社	-

(注)集計対象は、全国の証券取引所に上場している3月決算企業(金融を除く)のうち千葉県内に実質的な本社を置いており、前年度決算と比較可能かつ14年3月期業績見通しを開示している企業

出所:各社の決算短信等から、ちばぎん総合研究所にて作成